

選考委員賞

誰が止めるの？森林減少

芝小学校 五年 安河内理音

世界の森林減少は今、気にせずにはいられないほど進んでいます。なんと、森林が一時間に東京ドーム二百二十七個分も失われています。森林はどうしてこれほどまでに減ってしまったのでしょうか。また、世界の森林はこのままにしておいて良いのでしょうか。しかし、嬉しいことに、私たちの住んでいる日本では森林が減っていません。これは世界でもめずらしいことです。世界の森林は減り続けているのに、どうして日本の森林は減っていないのでしょうか。理由は日本、また日本人が「森林の木を伐ったら、同じ場所に苗木を植え、同じ本数を育て、再び森林にもどす」ということをくり返し行っているからなのです。これは日本のすごい点です。

木は水をたくわえます。日本は森林について詳しく考え、大切にするためのルールがあるからこそ、一本一本の木が守られ、また、水も守られているのです。だから、日本は水に富んでいるといえます。木は水がなければ生きることができない。水は木がなければ存在することができない。木と水は共存しているのです。だから、木を伐りすぎてはいけません。森林が減るとどんなことが起こるのでしょうか。まず二酸化炭素の吸収量が少なくなり、酸素の放出量も少なくなります。すると、人類やその他の動物が生きていけない環境になってしまいます。そして、先ほども書いたように水がなくなってしまう。水がなければ地球上の生き物は生きていくことが不可能になってしまいます。人類でいえば、トイレの水が流せない、お風呂に水が貯められない、という生活に必要なことが出来なくなってしまうのです。私はそんな状態になって、ふつうの生活が出来なくなるのは嫌です。だから、もうこれ以上、森林が減少することを防ぎたいと思いました。でも私のような小さい人間にも何か出来ることがあるのでしょうか。しかし、私は小さいことからでも取り組んでみようと思いました。リサイクルやポイ捨て防止、町の清そう活動に参加するなど、考えてみると思ったよりも多くありました。これからはこれらの活動に積極的に参加し、また、その他にもできることがあると思うので探していきたいです。そして、今後みなさんも、酸素の放出源の森林、限りある資源の水を大切に扱っていききたいです。